

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p>開 会 午前 9時 58分 平成30年7月4日 閉 会 午前 11時 45分</p>	
2 会議の場所	<p>厚生環境委員会室</p>	
3 出席者	委 員	<p>委員長 駒 田 誠 副委員長 平 岩 正 光 松 村 多美夫 伊 藤 秀 光 脇 坂 洋 二 篠 田 徹 野 村 美 穂 酒 向 薫 山 田 実 三 澄 川 寿 之</p>
	執 行 部 等	<p>別紙配席図のとおり</p>
4 事務局職員	<p>係長 古野 直美 主事 岩島 由里奈</p>	

5 会議に付した案件		
件	名	審査の結果
1	<p>これからの健康・医療・福祉対策に関すること</p> <p>○参考人 特定非営利法人地域ケア政策ネットワーク 代表理事 山崎 史郎 氏</p>	
2	その他	

6 議事録(要点筆記)

○駒田 誠委員長

ただいまから、これからの健康・医療・福祉対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、重点調査項目に基づき、「人口減少社会における福祉・生活支援のあり方について(特に中山間地域について)」という議題について、御協議いただくため、開催したものである。

本日は、特定非営利活動法人「地域ケア政策ネットワーク」代表理事の 山崎史郎氏を参考人としてお招きしている。

山崎氏は、厚生労働省で介護保険法の制定、実施にあたられ「ミスター介護保険」とも呼ばれている。内閣府政策統括官、内閣総理大臣秘書官、厚生労働省社会・援護局長、内閣官房地方創生総括官などを歴任され、現職となられた。著書「人口減少と社会保障」は自治体関係者のみならず企業、教育関係者等においても広く支持を得ておられる。

この後、「人口減少と社会保障 ～全世代型社会保障を考える～」と題して、貴重なお話をさせていただく。

なお、執行部職員の出席については、重点調査項目を担当する部局を中心に、出席いただいているので、あらかじめ御了承願う。

それでは山崎先生にお願いする。質疑は、御説明の終了後にお願いする。

(参考人 山崎史郎氏 説明)

○駒田 誠委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

○平岩正光副委員長

本県は99の市町村が合併して42市町村になったが、例えば中津川市は1市7町村の合併で8万人規模になったものの、旧郡部の人口減少が加速している。

高知県は、人口減少に対応するため、多様なサービスを提供できる地域福祉の拠点の整備について、全県で取り組んでおられるようだが、このような施設が中心部にできた場合、一層郡部の過疎化が進んでいくのか。また、コンパクトに整備した場合、地域住民の満足度は高まってきているのか、教えていただきたい。

○山崎参考人

地域によって異なるため、一概には言えないが、最終的には生活圏域が守れるかということ。ガソリンスタンドはどうするのかというような、購買の話も考えなければならない。

そのような中で、医療・福祉の拠点はなるべく小学校単位ぐらいで集めていく。市の中心部に集めても距離的にそこまで行けない。集落ごとでは小さいが、小学校区ぐらいで、金融、交通、福祉等、何でもできる拠点を総合化して持つしかないだろう。

ハードの総合化の次には、運営する組織を誰が担うかということだが、三重県の名張市では市の交付金を使

って、住民が行っている。主体になるのは住民しかない。その組織を行政は大切にして、任せるのが一番良いのではないか。

○平岩正光副委員長

今後、当委員会では視察を行い、議論を深めたいが、適した場所はあるか。

○山崎参考人

いい事例を共有すべきであり、それを少し上回る形を作ってもらいたい。高知県の拠点整備は中山間地において、県が全体を底上げするために何をすべきかという良い例。中四国は高齢化が早いため、島根県も一生懸命取り組んでいる。島根県の邑南町は名張市の地域づくり協議会のような取り組みを行っている。

○駒田 誠委員長

東京都の出生率が低いとのことだが、この傾向は続くのか。

○山崎参考人

出生率は少しずつ上がっているが、東京都の出生率はボリュームが大きいだけに日本全体の足を引っ張ることとは間違いない。子どもを産んで仕事を辞める人が最も多いのは神奈川県。岐阜も比較的多いため、子どもを産んでも働きやすい環境について考えなければならない。

○駒田 誠委員長

人口減少の傾向については、マッカーサーが関与したものだという書籍を拝見したことがあるが、国にはこうした政策に抗してやっていただきたかったと思うが、いかがか。

○山崎参考人

諸外国の合計特殊出生率を見ると、結果として日本、ドイツ、イタリアの敗戦国が低い。戦時中の産めよ、増やせよ、という状況の反省から、人口については政府があまり言わない方がいい、抑制気味という側面はあると思う。

ただ、それだけが問題なのではなく、大事なのは女性の働き方と育児は誰がやるのかということ。昔の農村社会では、子育ては集団で男性がやっていた。これが沖縄ではゆいまーるといって地域で子どもを育てる形で残っている。

専業主婦が一人で子育てを始めたのは団塊世代であり、ごく最近の話。実は日本では、みんなで子育てを行ってきた。それが一番変わってしまったのであり、男性がどう育児に向き合うのかというのが根幹。

○駒田 誠委員長

祖父母、特に祖父がもっと育児に参加しないといけない。

○山崎参考人

今、会社によっては、孫のための育児休暇がある。ぜひ、それくらいやってもらいたい。

○駒田 誠委員長

ほかにも意見はないか。

(発言する者なし)

○駒田 誠委員長

御意見もないので、参考人からの聴取を終了する。

当委員会の視察につき、本年8月中～下旬にかけて、県外視察を計画したい。現在、日程を調整中であり、視察先については本日の説明を参考としながら、調整していく。

それでは、これをもって、本日の委員会を閉会する。

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会
委員長

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会配席図

平成30年7月4日(水) 10時～
議会東棟 3階 厚生環境委員会室

			清水 女性の活躍推進課 男女共同参画推進課 子育て支援課 少子化対策企画監	岩村 高齢福祉課 介護事業者指導監	各務 障害福祉課 社会参加推進 企画監			
田口 地域福祉課 福祉人材対策監	奥田 医療福祉連携 福祉推進課 在宅医療	若原 医療福祉連携 看護対策監	森 医療福祉連携 医療人材対策監	浅井 障害福祉課長	赤尾 保健医療課 健康推進室長	井戸 保健医療課 感染症・疾病 対策監	佐橋 生活衛生課 食品安全推進室長	古田 生活衛生課 住宅宿泊事業 対策監
寺島 高齢福祉課長	安江 地域福祉課長	野池 生活衛生課長	植野 子育て支援課長	堀 環境生活政策課長	今瀬 県民生活課長	沖川 都市政策課長	伊藤 住宅課長	水野 公共交通課長
三輪 国民健康保険課長	長沼 健康福祉政策課長	山田 健康福祉部次長	田口 子ども・女性局長	森岡 健康福祉部長	西 健康福祉部次長	稲葉 健康福祉部次長 兼保健医療課長	伊藤 医療整備課長	松原 医療福祉連携推進 課長

出入口

傍聴席

出入口

山田(実)委員	
野村委員	
脇坂委員	
松村委員	
駒田委員長	

澄川委員
酒向委員
篠田委員
伊藤(秀)委員
平岩副委員長

山崎先生
(参考人)